

令和8年熊本地震に係る
第11回政府非常災害現地対策本部会議
第18回災害対策本部会議 議事録

日時：令和8年8月8日（土）16：00～

会場：県庁防災センター2階 災害対策本部会議室

1 開会

2 議事

（1）今後の気象の見通し

別紙「気象台資料」により説明（熊本地方気象台）

（2）県からの報告

別紙「各部説明資料」により説明（各部長等）

（3）国からの報告

①経済産業省

エネルギーインフラおよび物資支援について、大きな変更なし。中小企業支援については、昨日、国として激甚災害指定の見込みを公表。今後は、被害額の詳細な調査を引き続き進めるとともに、被災した事業者の事業再開及び事業継続に万全を期して対応していく。

②国土交通省

九州自動車道の松橋インターから宮原サービスエリアまでの区間において、現在、緊急車両のみ通行可能となっていることに加え、8月9日中には宮原サービスエリアから八代インターまでの区間についても、緊急車両の通行が可能となる見込み。また、8月9日の週には、九州自動車道全線で緊急車両の通行が可能となるよう、復旧作業を進めている。さらに、関係機関と連携して「熊本県災害時交通マネジメント検討会」を開催。前日に開催された第4回会合では、お盆期間中の交通混雑緩和に向け、不要不急の移動を控えるよう呼びかけることとされた。被災者支援については、住宅に関する情報として、国土交通省本省において、被災者の住まいの確保に関する情報を取りまとめたポータルサイトを開設。同サイトでは、公営住宅等の提供、賃貸型応急住宅の提供、被災住宅の修理等に関する相談窓口などの情報を一覧できるようになっており、活用をお願いする。

③自衛隊

8月8日は、給水支援本部での調整を踏まえ、9か所の病院を含む27か所で給水支援を実施。また、熊本県建設業協会による家屋へのブルーシート展張作業については、台風接近に伴い8月6日から実施しており、本日までの予定で対応。加えて、ラストワンマイルの救援物資輸送として、4市町の福祉施設18か所に対し、ペットボトル

1,066 箱を輸送。入浴支援については、8 月 7 日は台風による強風の影響で規模を縮小したものの、三角港及び氷川中学校において支援を実施し、計 121 名が利用。8 月 8 日の入浴支援については、引き続き三角港及び氷川中学校で利用可能であり、前日に支援を休止していた小川防災拠点センター及び宇城市役所についても、現地の天候状況を踏まえ、再開できる見込み。ただし、現地の風の状況等によっては、支援中止の可能性がある。入浴支援に関する案内は、第八師団の SNS で随時発信しており、県にもリポスト等による周知協力を依頼。

④海上自衛隊

八代港での入浴支援については、一時中断していたものの、艦船の入港後、翌 9 日 19 時から再開する予定。今後は、艦船が補給のため不在となる期間に入浴支援が中断しないよう、艦船を入れ替えながら対応していく。また、艦船によっては、これまでと同規模の艦内での入浴支援が実施できない場合があることから、岸壁に設置している入浴支援機材を増設し、可能な限り従来と同様の 600 人程度の受け入れ能力を維持できるよう努める。三角港については、今後、岸壁での入浴支援機材を撤去する予定はなく、引き続き艦船を中心とした入浴支援を継続していく。

⑤総務省

これまでは、総務省から対口支援に係る派遣決定人数を報告していたものの、実際の派遣人数とは差が生じていることから、今後は、より派遣の実態を反映する人数として、県総務部から報告されている実際の派遣人数に一本化して報告する。

(4) 関係機関からの報告

①緊急消防援助隊

被災地の消防本部に対する救急隊の支援を行うとともに、病院間の転院搬送に対応している。また、避難所においては、被災者に対する熱中症予防の啓発活動を実施しており、今後もこうした活動を継続していく。

3 災害対策本部長（木村知事）からのコメント

別紙「本部長（知事）コメント」のとおり

4 政府現地対策本部長（古川政務官）からのコメント

本日より政府現地対策本部長を務めることについて挨拶。木村知事をはじめ関係機関と「ワンチーム」で取り組んでいく。当日朝から八代市鏡地区の避難所 2 か所を視察、避難所ではパーテーションや段ボールベッドが整然と配置され、NPO 等と連携したスタッフにより、被災者へのきめ細かな支援が行われていた。避難所環境の改善について、女性専用スペースの確保、プライバシーの確保、安全なトイレ配置などの必要性を指摘、内閣府の男女共同参画の視点からの避難所チェックシートの活用を促す。必要な資機材について、現場のニーズに応じて支援を行う。今後も政府一丸となって被災地を支えていく。